

## 国際ロータリー 第2550地区

## 黒磯ロータリークラブ会報

国際ロータリー会長：K.R. ラビンドラン  
 第2550地区ガバナー：中谷 研一  
 事務所：〒325 - 0826 宇都宮市西原町1 4 2  
 宇都宮グランドホテル内  
 TEL：028-651-2550  
 FAX：028-651-2551  
 E-mail：m2550@agate.plala.or.jp



会長：和気 勝利 幹事：秋葉 秀樹  
 事務局：(株)帝都 秋葉秀樹  
 〒325-0051 那須塩原市豊町13-9  
 TEL:0287-62-3131・FAX:0287-62-5455  
 E-mail:hideki\_akiba@teito-group.co.jp  
 例会：毎週水曜日 12:30 - 13:30  
 割烹石山 那須塩原市本町5 - 5

第2701回 和気年度 第15回 会報 2015- 10-14 司会 大森貞男君

🌀 お客様

元大山小学校校長 おおや かへい 大谷嘉兵衛様

🌀 会長挨拶 和気勝利会長



先週の10月8日、毎年恒例の芋煮会が当家にて行われました。夕方より数人の奥様が集まりご準備をしていただき、楽しい時間を過ごさせていただきました。また同日には、那須ロータリークラブより片桐会長と笠原会員もご参加いただき芋煮会を盛り上げていただきました。齋藤ご夫妻をはじめ、ご協力いただいた奥様、そしてご参加いただいたたくさんの会員の皆様へ感謝申し上げます。

10月に入り、いいお天気で行楽シーズンとなっておりますが、会員皆さまはいかがお過ごしでしょうか。今週末の18日(日曜日)は、日光へのハイキングが計画されているようですので、お時間が許す方はご参加いただけますようお願い申し上げます。

さて、行楽というと私はときどき二輪車に乗るわけ

なのですが、十代の終わり頃から乗り始め、30歳半ば頃には降りたのですが、長男のバイク乗りがきっかけで50歳始めからまた乗り始めました、行楽シーズンの中このバイクに関する話題をご披露申し上げます。

今を遡ること30年、1980年代の日本はまさに空前のバイクブームでした。その担い手は10代20代の若者たち。250～400ccクラスの当時「中免」で乗れるバイクが大人気で、国内各メーカーが盛んにニューモデルを投入しました。が、その後のバブル崩壊による景気低迷とともにバイクブームも下火に、少子化と若者のバイク離れも手伝って、バイクの国内販売台数はピーク時の10分の1程度まで落ち込みました。

ところがここに来てバイクブームが復調の兆しを見せています。大型二輪や外国車がかつてなく売れ、その勢いに引っ張られように小中排気量クラスも好調だとか。そして今回のブームの主役は中高年層、そう徐々にバイク乗りとして復活した「リターンライダー」たちなのです。

バイクは自然や空気を文字通り肌で感じる事が出来る自由ですばらしい乗り物です。車に比べ燃費がよく、駐車スペースもとらず、機動性に富むなど優れた特性があります。

ただ、実は問題も出てきております。中高年ライダーの事故が増えているのです。リターンライダーは昔取った杵柄で自分を過信する傾向があるようです。加齢とともに体力や視力の衰えも避けられず、現在の高性能バイクを扱いきれていないことも指摘されております。無理のない「大人の運転」を心かけ、日頃か

出席報告 出席委員会 安藤譲治君 (出席規定の適用免除会員数5名)

例会日	会員数	出席数	欠席数	出席率	MU数	修正出席率
本日10月14日	41(5)	33(4)人	8(1)人	82.5%	*	
前回10月7日	41(5)	31(4)人	10(1)人	78.0%	6人	92.5%

欠席の場合は当日9時30分までに次のいずれかにご連絡を。電話62-0128,FAX62-1076(以上石山桂子)

メール qqvn2bz9k@sound.ocn.ne.jp

ら運転スキル向上を目指すことが大切ではないかと思われま

す。同じことが、山のぼりやスポーツ等いろいろ考えられます。高齢者の山のぼりでの遭難事故、スポーツ中での事故死などなど・・・このところの報道を見てお

## ❁ 幹事報告 秋葉秀樹幹事

### 【第6回 理事役員会】

新年会について、津久井親睦委員長をお招きし、打ち合わせを行いました。一部変更になりましたが、その他は承認されました。

10月プログラム変更。

10月7日、会員選考 / 職業分類委員会から米山記念奨学会委員会へ。

10月14日、米山記念奨学会委員会から会員選考 / 職業分類委員会へ。

外来卓話、本日お越しにいたっている、元大おおや山かへい小学校校長大谷 嘉兵衛様 承認

米山記念奨学会委員会

特別寄付 一人 13,000 円 承認  
次年度ガバナー補佐輩出の件。

高木慶一様をお願いすることになりました。承認  
新入会員の件。高木慶一会員の推薦があり承認され

た。  
職業奉仕委員会担当 11月11日はお菓子の城に  
職場訪問。 承認

茨城・栃木水害義援金について。

2,000 円 / 人 × 41 人 = 82,000 円 承認

### 【第15回 幹事報告】

第1ゾーン理事指名委員会による選出についての案内が届いております。

地区大会に関しての諸連絡が届いております。

那須野巻狩まつり実行委員会より打ち合わせ会議の案内が届いております。

会員増強委員会の高木慶一委員長より会員推薦がありました。

異議申し立ての有る会員は、1週間以内に書面にて幹事の方までお申し出下さい。

1年交換学生経費分担金の依頼が届いております。

11月の地区大会本会議においての「ルーキーオブザイヤー」の推薦の案内が届いております。

## ❁ 委員会報告 秋葉秀樹幹事

鳥居会計長

10月20日栃木銀行より次の引き落としを致します。

1. ロータリー財団寄付 12,000 円
2. ロータリー米山記念奨学会特別寄付 13,000 円

齋藤武久君

10月8日和気亭の庭で芋煮会を開催しました。寒い夜でしたが、日本酒が大量に売れ盛会でした。残念ながらちよっぴり赤字でしたので。

## ☺ ニコニコボックス 鈴木隆子君

齋藤 武久君 芋煮会無事終了しました。参加人数が24人でしたので、ちよっぴり赤字となりました。

村山 茂君 芋煮会大変お世話になりました。

## ❁ 卓話 会員選考 / 職業分類委員会 室井次男副委員長



先ほど会長から大谷嘉兵衛様の紹介がありましたが、私から、簡単で大谷様には失礼なのですが同級生のよしみでご容赦いただきまして、少しだけ付け加えさせていただきます。

大谷様は、那須地区の学校で教鞭をとっておられましたが特殊教育に関心を持たれ、現職のまま千葉県にある専門機関に内地留学されました。復帰後は、言葉の教室に在籍して、障害を持つ子供たちや保護者の方々の相談に長く携わってこられました。その中で障害を持つ子供たちの多くは両親の子供に対する接し方に問題があり、子供たちの非社会的行動や、反社会的行動に発展し、大きな社会問題になっていることに危機感を抱くようになりました。そして、「子育て」について啓発活動をする必要性を強く感じるようになったと聞いております。

「子供の救助信号」「子育てイエローカード」の著書も出版されております。

今日は、子育ての問題点などについてお話しいただけるのかなあと考えております。それでは大谷様よろしくお願いたします。

大谷嘉兵衛様



私は昭和四十八年度から六十年間までの十三年間大田市立大田原小学校で「ことばの教室」の担当者として、問題行動児の臨床に携わった。その数は約三百事例に達した。相談内容は、言語障害は言うに及ばず、情緒障害、自閉症などの発達障害。微熱、チック症、不登校、家庭内暴力等の非社会的問題行動から万引き、非行、家出等の反社会的問題行動と多岐にわたった。

年齢は幼児から小・中学生、高校生。大人のうつ病患者もいた。

幸いにも、そのほとんどの問題が解決した。私の胸の中には自負が膨らむと同時に、青少年健全育成を目指して啓発を試みたいという思いが湧き出てきた。

昭和六十年九月、栃木県連合教育会「やしお文庫」より「子どもの救助信号」を出版した。これは第五版まで増刷され、主に栃木県内で読まれた。さらに退職後も日本の近未来社会に不安を感じ、社会に対する警鐘の意味を込めて、平成十七年八月に近代文芸社より「子育てイエローカード」を出版した。これは店頭販売で、全国各地の公立図書館で購入されたが、増刷までには至らなかった。

ここ数年は、その意欲も無くなりつつあったが、今回の企画をみて一人でも多くの人の心にお届できたらと願い筆を執った次第である。

ここでこの場を借りて、私の憂いの一端を披露する。非社会的にしる、反社会的にしる、問題行動を起こす子どもは、本人が意識するしないに拘わらず、「どうせ俺(私)なんか」というような「自己嫌悪」ないし「自己否定」と思える「自尊心」が育っていないのである。自尊心が育っていないことに対する苛立ちを自分に向ければ非社会的問題行動になる。

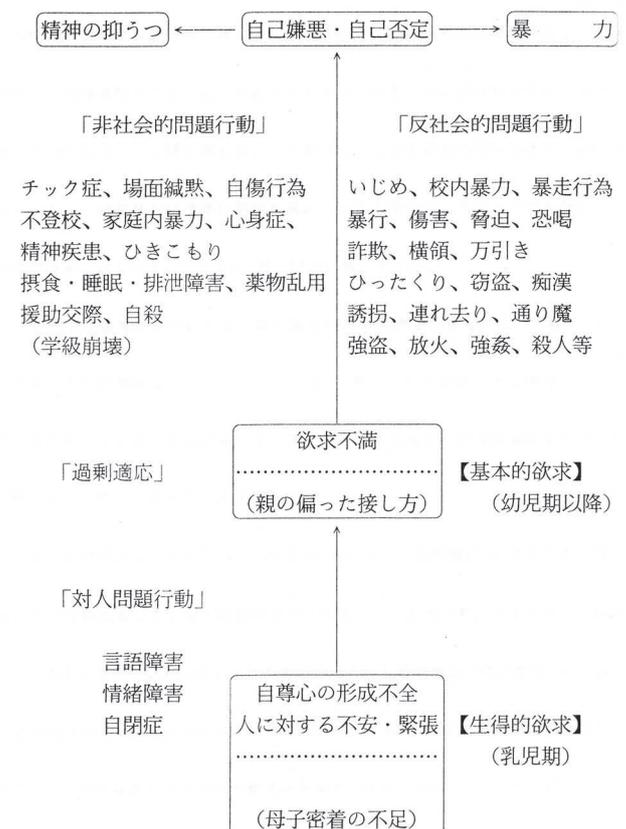
その苛立ちを他人に向ければ反社会的問題行動になる。このように、乳児期の母子密着の中で豊かな愛の

原体験を獲得できなかった人間は生命力に欠け、社会適応行動がとれないのである。このことは精神医学、動物行動学、発達心理学、児童臨床心理学等の分野で早くから指摘されていたが、最近では大脳生理学でも証明されている。乳児期の、記憶に残らない愛の原体験が人間の生命力の源泉なのである。「三つ子の魂百まで」の諺を出すまでもなく、乳児期における親のなにくれとない世話(育児行動)やスキンシップを中心にした楽しいやりとり(あやし行動)つまり母子の絆(アタッチメント)こそが子どもの人格形成の上で決定的な意味を持っているのである。

前ページの「対人問題行動」について説明を加える。言語障害で対人行動に問題があるのは、言語発達遅滞児や楯音障害児、吃音などの機能的言語障害である。情緒障害は、場面緘黙やチック症、多動や注意欠陥、自傷行為、感情制御欠陥などである。自閉症は全くことばを発しない子や、数語のことばをおまじないのように口にする子である。いずれも幼児期に問題が現れ、人と上手く交わることができないという共通項をもっている。つまり、「対人問題行動」である。

これらの行動異常については、最も基本的な発達課題である「母子の絆」(アタッチメント)が形成されて

私は、以上のような観点から問題行動を次のように類型化できると考えている。



いない。つまり、「親に対する信頼」さえ獲得しておらず、親に対して不安・緊張を抱いている。これでは将来とも社会に適応する力（社会性）はついていかないことは明白である。

一方、幼児期においては「よい子」と見なされている「過剰適応」の子がいる。過剰適応の子は親に対して不安・緊張を抱いているから、甘えたり、ぐずったり、相手をしてもらいたがり、おねだりしたり等の子どもらし感情表出（自己表現）がない。身近の自立が早く、親の手を煩わせることがない。反抗することがないので躡もしやすい。自分の行動を家族に合わせている等々、外見上は誠に「よい子」なのである。

しかし、このような子はやがて「よい子」でいることに耐えられなくなり、年齢が進むにつれて退行現象を起こしたり、破滅的な行動を引き起こすようになる。どこに分類したら良いのか分からなかったので三頁には載せなかったが、児童虐待や近親者殺人、ドメスティック・バイオレンスなど、以前には考えられなかった事件が多発し、家庭の安全神話が崩壊している。いじめ、器物破損、傷害、学級崩壊等と学校が抱える問題も山積している。幼児、児童生徒に対する殺傷事件も枚挙にいとまがない。まさに心の荒廃極まりの感がある。

これらの中でも児童虐待は育児の崩壊を端的に表している。乳児期に愛の原体験を獲得できなかった人（母も父も）は、子どもに無償の愛を授けることは出来ない。その上、子どもを目の前にすると、記憶にはない自分の原体験がよみがえってくる。極悪だった原体験はさらに凄惨な形で現れる。

人が社会生活をしていくのに必要な心の構築は乳児期、つまり「三つ子」（一歳半～二歳）の時点でほぼ決まるのである。“生理的早産”“一年早生まれ”といわれるほど未熟な状態で生まれる人間の赤ちゃんには、安心しきった状態で護られていることが絶対必要である。その為に“おんぶ”や“だっこ”などのスキンシップが大切であり、微笑みかけや語りかけなどのあやし行動（母子相互作用）が大切である。これらの要素が満たされることによって、人の一生を支える母子の絆が形成され、将来社会生活をするための絶対条件である人に対する基本的信頼を獲得し、自他を大切にする自尊心を獲得する。哺乳動物であるヒトが、「運び歩き型」の育児をしてきたゆえんである。人類がその進化に伴って積み上げてきた育児方法が、この四十～五十年の間に取り返しが効かないほど崩壊した。その結果、母性を喪失した女性が増え、乳児期における母子密着が不足して、子どもの生得的欲求が満たされず、子どもの円満な人格形成が危うくなりつつある。

乳児期に母子の絆が形成されれば、幼児期以降の親の偏った接し方（過保護、過干渉、溺愛、拒否、厳格、放任、支配、服従等）はなくなる。親の偏った接し方がなければ、子どもの基本的欲求（依存・親和・独立）は程よく満たされ、健全な成長を遂げるのである。

このように青少年健全育成の基盤は乳児期にあるのである。私たちは今、次のようなことを柱として、未来社会のために根本的な対策を講じなければならない。

一、保健関係機関で母子密着の育児の重要性を推進する。

一、母親たるもの二年の育児休業を確保し、赤ちゃんとの母子の絆を確保する。（乳児期とは一歳半～二歳である）企業の大小を問わず母親の育児休業中の給料を保障し、休業明けの身分を保障する。零細企業についてもこの原則を守る。これを実施していくために国も地方行政も本気になって予算を確保する。

一、高等学校の教育課程に「育児学」を設置し、発達心理学を学ぶ。

一、無認可の託児所をなくす。乳幼児施設は、全て人間性あふれる施設でなければならない。

幸いなるかな最近では、カンガルーファッションで赤ちゃんを宝物のように大事にしている母親が増えている。また、待合室や電車の中などで、会話が弾み、戯れ合っている親子も多く見かけられる。育児の崩壊の危機を乗り越える光明が射している。この機を失すること無く、政治も行政も社会の根幹の構築にこそ目を注ぐべきである。

三分間スピーチ 小野安正君  
 ・ ・ 私の関心事 ・ ・



テーマが、私の関心事、ということですので一言いわせていただきます。

この歳になれば、誰もがボケないという事に関心をもちながら生活しているとおもいます。

人によっていろいろだと思いますが、私はバイクに乗っています。バイクはなんとなくでは運転出来ませんので。常に緊張感をもって運転しています。一年に日本半周を、目安に乗っています。日本を4.5周すれば大方すみずみまで走れるかな～と思っています。

富士山の、すその山間を、ロックン・ロールの音楽を響かせながら、くねくね道をバイクねせながら富士山を横目に風を切って走ることは、最高の喜びをかんじます。

この世に、生まれてよかった、日本人に生まれてよかった、バイクに乗ってよかった。富士山は心を動かす力をもっている気がします。

私が、30歳の誕生日の日に今日から歳とらない、常に30歳生きると、自分に言い聞かせてきましたが、70歳を前にしてとうていかなうものではありませんが、カッコいいおじさんでいこうと思っています。たとえば、ひげの剃りおとし、鼻毛、爪、常にカットする。ス

ラックス、とソックス出来るだけおなじ色にする、靴とベルトもおなじである、このように日々気をつかいながら、緊張感をもってボケを遅らせていきたいと思っています。

遊びは、金がかかる、これも家族の理解あってのこと、感謝、感謝である。

委嘱状伝達



高木慶一君に第1グループのガバナー補佐の委嘱状が伝達された

10月14日欠席(敬称略)

吉光寺政雄・高木茂・平山博・深町彰・秋間忍  
 遠藤清和・澤田吉夫・月江寛智

前回10月7日分メイクアップ(敬称略)

小野安正・高根沢邦夫・安藤譲治・大島三千三  
 稲垣政一・高木慶一

次回例会 平成27年10月21日 担当ロータリー米山記念奨学会委員会

近隣クラブ例会日

火曜日 西那須野/いとう家 0287-36-0028  
 水曜日 塩原/塩原カントリークラブ 0287-35-2211  
 木曜日 大田原中央/勝田屋記念会館 0287-23-4165

木曜日 大田原/ホテル龍城苑 0287-24-2525  
 木曜日 那須/ホテルエピナール那須 0287-78-6000  
 金曜日 黒羽/ホテル花月 0287-54-1105

会報委員会：磯勝彦・齋藤武久・植竹一裕・高木慶一・鳥居輝一